

旅行雑記

岡 沢 昭 (猶興館校大島分校)

1昨年来、夏期を利用し観光旅行を兼ねてなるべく広い地域の地質に接しようと思ひ立ち、大いに歩きまわることになっている。

地質調査などというだけそれたものではなく地質学的に著名な場所に実際に接していれば後々、何らかのプラスを得ることが出来るのではないかとの意図のもとにである。

1昨年は長崎大学の鎌田先生に同伴させて戴き岡山、広島両県に亘って歩いたが、昨年

はさらに足をのびして関東方面を歩いた。今回は古生代、中生代の変成帯の岩石に接することを目的とした。

豊橋より飯田線にて天竜川沿いに北上し、途中数カ所下車し、その内天竜峡の美景を見、天竜峡花崗岩と対面することができた。

次いでさらに北上し、中央アルプス玄関の駒ヶ根市郊外西方の空木岳中腹を歩き領家変成岩帯と接したが残念ながら露頭にめぐまれず領家帯花崗岩類と領家変成岩類の接触部分を見ることができなかった。

次いで松本、上高地、東京を経て秩父へ。

秩父は以前からは是非歩きたいと考えていた所で、実際に行ってみると著名な所だけに非常に勉強になった。秩父といえは長瀬の岩石園であるが、この他武甲山自然公園も著名な所である。

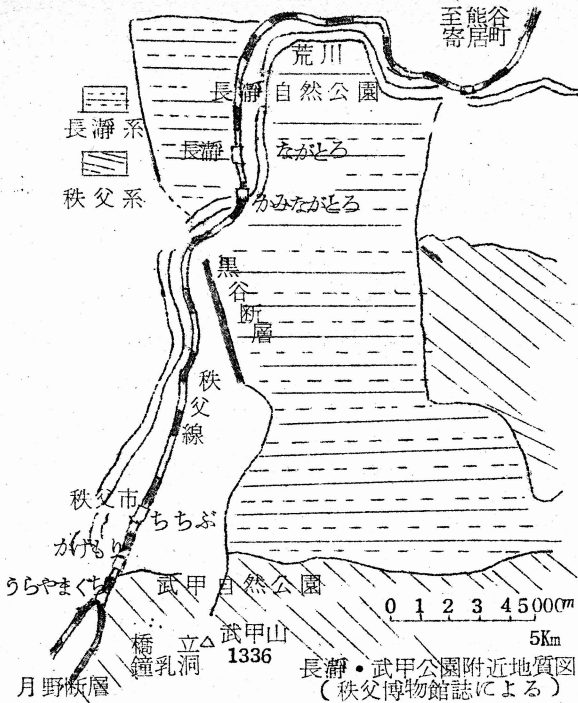
埼玉県熊谷市より秩父鉄道にて上長瀬駅に下車すると駅前に5、6軒のみやげ物店がならびその店頭には変成岩類や貝化石等が売出さ

れている。駅前より直線道路150米程進めば荒川に行きあたる。この河沿いがいわゆる長瀬岩石園である。

まず博物館を訪れたが、出発前鎌田先生より紹介状を載っていたが研究員の方は不在とのことであった。然し当地はよく研究されており一般の人にも理解し易い解説小誌「地質の見学と採集の手引」及び「秩父自然博物館研究報告」が出版されており、一般にも購入できるようになっている。

当日は長瀬岩石園をつぶさに歩くことにした。御存知の通り長瀬系とは三波川系、御荷鉢系をひっくり返っており、藤本治義博士によると結晶片岩の原岩生成は石炭〜二疊紀よりジュラ紀に至る地質時代とされている。

岩石の露出は非常によく小生の泊った旅館の裏が岩石園で天然の広庭園をなし、前面には秩父赤壁といわれる断層崖がそびえ、河底は片隅に沿ってけずられて美しい風景をなしている。河沿いの好露頭は野上より親鼻まで続き、緑泥片岩、紅簾片岩、脆雲母片岩、その他の結晶片岩及び数多くの鉱物がみられ、又赤鉄片岩の褶曲、断層崖、欧穴等の様々の変化ある地質構造を観察でき大変有意義であった。当夜は長瀬に静かな夜を過したが、翌早朝今迄の食過ぎがこたえたのか腹痛をおこしてしまった。然し予算と日程の都合があり無理をして再び汽車にて奥へ進み、ひなびた浦山口駅に下車。もうこの一帯は秩父古生層で



秩父古生層層序

秩父古生層	上影森砂岩角岩層 { 上部含化石 下部
	— 部 断 層 —
	武甲山石灰岩層 (層厚 450m)
	— 断 層 — 宇速沢輝緑凝灰岩層 (層厚 700m)
	一ノ沢角岩層 (層厚 1300m)

小川敬之氏による

途中6合目あたりまで来た時、朝方の腹痛が
ぶり返してついに下山を止むなくされ、そう
こうしている内に時は過ぎてしまった。

かくの如きしだいで、まだまだ巡検したい各
所が多かったが断念せざるを得ず帰路につい
た。思いおこしてみると、この様な巡検観光
旅行は事前に資料を十分に調べた上で目的を
しぼってかからなくては効果がないことがわ
かった。

1昨年、昨年の経験を生かして本年は東北方
面を歩き見聞を広めたいと考えている。
まとまりのないだらだらな文章になってしま
いましたが標題の通りの雑記であります。然
しここに記しましたのは紙上の授業より実際
に巡検し、目で確かめることは授業内容を幅
広いものに出来ると思ふが故であります。

(昭和40年1月20日)

ある。まず橋立鐘乳洞へと向う。途中、浦山
川のV字谷を見ながら鐘乳洞へ到着。車中、
影森より浦山口迄はけわしい石灰岩の山々で、
この一帯の石灰岩は秋吉台が準平原をなして
いるのに対し、急激な地形をなしており、鐘
乳洞の外観も絶壁をなしている。

早速洞内を見物しようと入口に行くと入場料
とともにハンマーまで取り上げられてしまっ
た。洞内は非常に狭くボリュームのある女性
は通るのに一苦労するであろうと想像した。
この洞は垂直にのびていて文献によると瀑布
型鐘乳洞と記載してある。

この石灰岩層は層序表による武甲山石灰岩層
である。

さて、次は武甲山(1336米)を征服しよ
うと勇み出発。途中石灰岩地帯をいつのまに
か過ぎ宇速沢輝緑凝灰岩層内に入る1面輝緑
凝灰岩ばかりである。

石灰岩と本層の断層面を期待していたがつい
に出会うことができなかった。